

# 野外活動センター及び青少年ルーム 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】 野外活動センター・青少年ルーム  
 【指定管理者名】 特定非営利活動法人 大東市青少年協会  
 【評価対象年度】 令和5年度  
 【施設所管課名】 産業・文化部 生涯学習課

## 業務内容について評価

条例・協定書等に基づき、適切な管理・運営を行っています。

施設の利用者人数については、上半期に続いた雨天によるキャンセルにより令和5年度は16,338人となっています。(2,431人減 ▲13% R4:18,769人、R1:18,495人、H30:19,598人)

施設の運営業務については、センターやルームでの利用料金支払いについて、QRコード決済での対応を可能とし、また許可業務(受付業務)において『Google Forms』を活用し、センター・ルームの2箇所では情報を共有するなどして、利用者の利便性の向上及び業務効率化に成果を上げています。

施設管理に係る設備等の修繕・清掃では、修繕箇所を的確に補足し、早急に対応されています。また軽微なものについてはワーカーズと呼ばれる青少年協会のリーダーとボランティア協会員で構成されるチームによる活動を297回行い、実施されています。大阪府立消防学校とワーカーズの協働による施設美化活動については、地域連携の面からも費用の削減の面からも大いに評価できます。

青少年ルームでは、自治会でのこどもの活動や学校のクラス、学校のクラブ活動のチームビルディングについてなど、以前とは異なった相談内容が増えたが、青少年の健全育成に関する相談業務行を適切に行いました。

自主事業においては、親子対象の、「手作り味噌作りを楽しむ会」、「民具×米作り」や、手ぶらで楽しめる「ソロキャンプ」などの事業を実施し、参加者数も前年に比べ767人増加しています。また大東市こども会育成連絡協議会への事務支援や校区こども会の運営について、おまかせキャンプやリーダーのクリスマス派遣を行うなど、青少年育成に向け重要な役割を担っていただいていることは評価に値します。

野外活動センターの目的とする、野外活動及び集団生活を通じて青少年の健全な育成と、自然教育等による市民の心身の健全な発達と豊かで潤いのある市民生活の形成に向け、施設管理と事業実施に継続的な創意工夫が行われています。

## 利用者満足度について評価

利用者への「お客様アンケート(413件)」の回答では、初めて訪れた方が6割を超える中、『とても良かった』と回答した方が95.9%、『よかった』と回答した方が4.1%と、評価の大半が高評価という結果を示しています。これは利用者が気持ちよく利用できるよう、スタッフやワーカーズの方の意識の高さや、他の施設では行えないようなきめ細やかな接客によるものであり、初めてキャンプ場を利用される方が、リピーターとなるという好循環が生まれていると評価できます。

今後については従来のキャンプ利用者層と、現在・将来の利用者層の分析を行い、利用者の意見やニ

ーズを積極的に取り入れて施設の快適性を向上させることで、サービス向上に繋がる改善に努めていた  
だきたいと思います。

#### 収支状況について評価

収入においては、申込み者数は前年と変わらないものの、土日祝の雨天キャンセルが続いたこ  
とで利用者数、利用料は減少した。また、事業収入についても、人数は前年に比べ増加している  
ものの参加無料の事業もあるため、減少した。

支出については、人件費はコロナ禍の影響で縮小していたリーダー活動を通常通りに戻したた  
め、増加は見られたものの、職員の配置などを工夫し減少した。物件費は昨年度とほぼ変わら  
ないものの、事業費の支出が前年度より増加したため、最終的な収支は578,595 円の赤字となりま  
した。今後も、利用率、参加人数の増加や新たな事業の実施に取り組んでいただき、安定的な経  
営によるサービス向上を実現されることを期待します。

#### 総合評価

野外活動センターは、単なるキャンプ場ではなく、青少年の健全育成を目的の一つとしています。

指定管理者4 期目（1 年目）を迎え、こども会等との連携、小学生から始まり中学生・高校生・大学  
生・社会人、そしてその子どもへと循環していく枠組みは全国的にも数少なく、指定管理者が長年築き  
上げ豊富な経験とノウハウを最大限に発揮し、業務の充実とともに利用者からの信頼感も高まってい  
ることを評価します。

業務や事業での取り組みにおいては、web や SNS ツール活用するなど様々な創意工夫がな  
されていることを評価しています。また、過去から行われているワーカーズとリーダーによる修繕等  
の取り組みは、大人と青少年がコミュニケーションを図りながら行うことで、技術や経験の継承が図ら  
れているとともに、経費削減にもつながっています。

また、自主事業においては様々な事業を行い、収益をあげることで、要望の多かった本館1 階のトイ  
レの洋式化工事や、アーチハウスへエアコンの設置を行い、利用者のニーズや快適性の向上に取り組ま  
れたことを評価します。

今後も子ども・青少年の健全育成は重要な課題であることから、現状を分析し、将来に向けた魅力的  
な施設運営と社会的ニーズを捉えた事業実施の推進に期待します。